



若松小だより

自ら考える子 思いやりのある子 たくましい子

令和 7 年度 7 月号 No.4
令和 7 年 6 月 30 日
府中市立若松小学校
校長 生井 信太郎

小中連携の取組から

副校長 星芝 卓郎

6月11日（水）は浅間地区小中連携の日でした。若松小学校と府中第二小学校の先生方が浅間中学校を訪れ、5校時の授業の様子を参観し、その後で子供たちのことや指導内容等について情報共有をしました。このような取組は年間3回行われており、今回は9月に若松小学校で開催されます。

たいていどの地域でも第1回目は中学校での開催となりますが、3月まで小学生だった6年生が中学生になり、立派な姿に毎度驚かされます。制服を着て、言葉遣いも大人っぽくなり、ぐっと落ち着いた姿に大きな成長が感じられます。中学校の先生方との情報共有においても、嬉しい知らせが多いです。小学校では課題が見られ、心配していた子も、よく頑張っているということを知ります。

小学校から中学校への進学により、子供たちは大きな環境の変化に直面します。大きな校舎、広い運動場等の規模の面や、新しい先生や友達との出会いの人的環境の面、新しい規則や雰囲気に入っていく文化の面等が考えられます。小学校から中学校への接続を滑らかにし、中1ギャップという問題が起こらないよう、小学校と中学校の教員は連携して取り組んでいます。小・中学校の文化は大きく異なりますので、滑らかな接続はなかなか難しいことです。それでも、多くの子供たちが大きな変化を肯定的にとらえることができているのはどうしてでしょうか。

中学校では完全に教科担任制となり、各教科の専門性のある教員が指導にあたります。小学校では多くが学級担任制であり、子供たちが一人の教員とじっくり心を通わせ、安心して学校生活を送れるようにしていますが、中学校ではそうではなく、様々な教員との関わりの中で育っていきます。各教科の授業、休み時間、部活動等、子供たちはそれぞれの場面によって様々な姿を見せ、その時々で関わる教員と関係性を築いていきます。教員たちは気付いたことを適宜情報共有し合い、指導の方向性をそろえて子供たちに接していきます。子供たちにとっては、多面的な自分らしさを表出することができることや、それらを受け止めてもらえる大人たちがいることがよいのかと思います。

また、中学校の先生方は子供たちを大人扱いし、適度な厳しさをもって接している印象を受けます。それが、子供たちにとって背伸びできるレベルであり、大人っぽく振舞っている自分を嬉しく感じているのかなと思います。

小中連携の取組から、子供たちは様々な人との関わりを通じて成長していくため、まわりの大人それぞれの関わり方が大切であると考えます。子供たちが見せる様子は場面によって様々です。学校でしか見せない姿、家庭でしか見せない姿があることでしょう。そこで、大人たちがそれぞれの見取った子供の姿を情報共有し合い、頑張りや課題を認めながら同じ方向を向いて関わっていく必要があります。

本校では7月22日（火）から平日の5日間、個人面談が行われます。短い時間ではありますが、ご家庭と学校とでお子様のことを語り合い、理解を深める貴重な機会になればと思います。

[illegible]